2005年福岡沖地震の教訓
～高層マンション被害の問題点(2)～

* 古くは1978年宮城県沖地震からの懸案事項だったのかも・・・
* 兵庫県南部地震の時の結論は，新耐震が良く機能し新しい建物の被害は比較的軽微であった，と云うものであった．しかし被害があまりにも甚大で非構造部材の問題はさほど注目されなかった．
* それでも非構造部材の破壊によって玄関ドアが開閉できなかった問題は一部の研究者によって指摘されていた．
* 福岡の非構造部材に起因するマンション被災者は孤立無援の状態に置かれていた．本当に悪いのはマンション被災者の側なのか？
* もし東京首都圏でＭ７級の地震があれば，福岡の場合と同様の被害がもっと広範囲に発生するのでは？
* 東京首都圏の高層マンションの実情はどうか？
* 最近の高層マンションは極限まで耐力を削られているのでは？

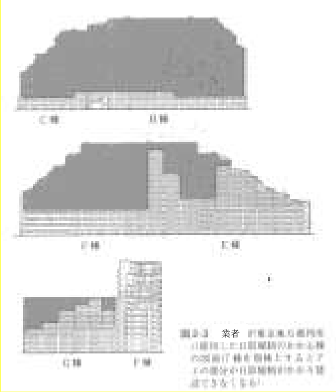
PPT−19

発端は日影問題から！
↓
一敷地一建築物や一団地認定制度は合法的なのか？

問題の背景には EXP.J や渡り廊下で連結された複数の建物群を一棟と見なすとのトリックが存在している！

PPT−20

一敷地一建築物

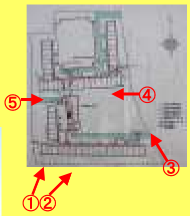


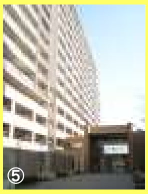
資料は「建築紛争（岩波新書）」からの引用．

PPT−21

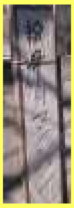
府中市東芝町の
Ｆマンション
2003.11竣工

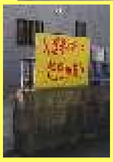
2006年12月撮影





PPT−22





近隣の状況

2006年12月撮影

PPT−23

一団地認定制度

都市計画法に規定あり
一敷地複数建築物が可能に

都立大学跡地に建つ Ｆハウス(巨大マンション)
2004年8月竣工

予定価格	180億円
Ｈグループ	265億円（落札）
Ｄグループ	210億円
Ｎグループ	208億円

資料は「建築紛争（岩波新書）」からの引用による．

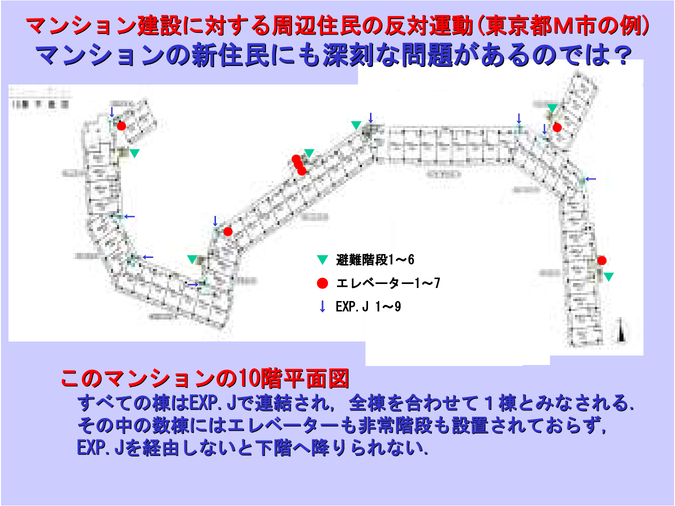
PPT−24

PPT−25

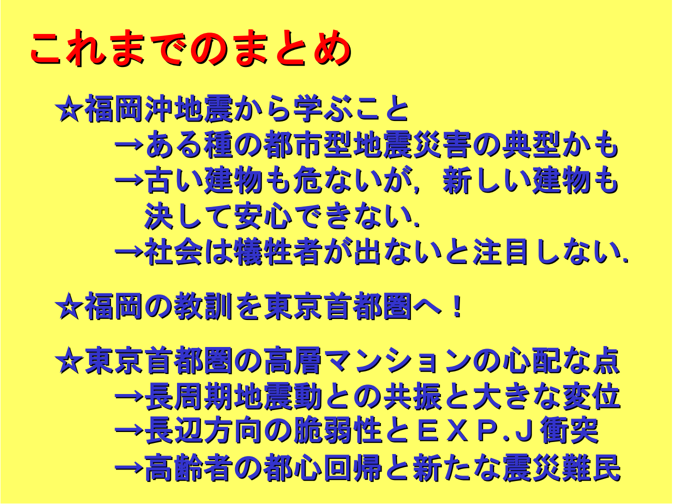
PPT−26

PPT−27

PPT−28



PPT−29



PPT−30